



しろうさぎ

S H I R O U S A G I



特集 Special issue

『がんゲノム医療について』

📎 病院長 年頭のご挨拶

病院長 椎名 浩昭

📎 インタビュー

- がんゲノム医療センター センター長 …………… 磯部 威
- 副センター長 …………… 津端由佳里
- 副センター長 …………… 鈴木 律朗

Contents

- *Professor ~どんな先生?~
- *まるわかり看護部
- *私のここだけの話
- *病院紹介
- *イベントなどのお知らせ
- *しまだい病院のキラ☆めき!



島根大学医学部附属病院長

しい な ひろ あき
椎名 浩昭



あけましておめでとうございます。昨年は厳しいコロナ禍で生活習慣の行動変容を余儀なくされ、皆様方も色々大変であったと拝察いたします。

当院は島根県の医療の「最後の砦」として、重症コロナ感染症患者とコロナ以外の重症患者さんの両者の受け入れを第一に診療を行って参りました。一方、第5波では、地域の医療の逼迫度合いに応じた柔軟な対応が求められ、重症例以外にも中等症や小児の患者さんをご家族とともに受け入れました。このような状況下で、地域の拠点病院として病院機能を最大限に発揮し維持する観点から、予定入院あるいは予定手術の変更、さらには面会制限などご不便をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

当院では早くから新型コロナウイルス感染症を災害として捉え、島根県の広域入院調整本部とともに近隣病院との密な連携体制を構築し、また、ワクチン接種においては当院の災害医療・危機管理センターを中心に、病院職員の総力を挙げて全面的に協力いたしました。その甲斐あって、新型コロナウイルス感染者数は他県と比較しても少なく、これも皆様方のご理解とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

2021年は新型コロナウイルス感染症対策として、抗原検査・PCR検査をより迅速かつ確実に行うためのトリアージ検査センターを設置し、新型コロナウイルスの病院内持ち込みあるいは院内感染を最大限に阻止するよう努力いたしました。一方、一般診療では、4月から総合周産期母子医療センターの稼働を開始し、10月には脳卒中に対応する集中治療部門としての脳卒中ケアユニット(SCU)の運用を3床から開始しました。4月より休診となっていた呼吸器外科チームを再編成し、高度で安全な診療の再開を行い、ロボット支援手術を泌尿器科、消化器外科、婦人科さらには呼吸器外科へと展開し低侵襲手術の拡大に努めました。白血病に対するCAR-T細胞療法やコロナウイルスの抗体価チェックなど、基礎医学部門と共同でおこなっている先進的医療も注目されています。

2年来の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、通常の日常とは異なる意識改革が必要となってきました。本年の干支は寅です。「冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる」と言われています。昨年の厳しいコロナ禍を乗り越えた今、地域で弱いとされる医療体制を支援し、ロボット支援手術や移植医療のさらなる体制強化など、職員総力で地域医療と先進医療の調和に努め、「患者さんが幸福になる」医療を実践していきたいと考えています。

本年もご理解とご支援をお願い申し上げます。



「がんゲノム医療」をご存知ですか？

今回は、がんゲノム医療センター・センター長の磯部先生にお話を聞きました。

—がんゲノム医療とは

がんは様々な遺伝子の変異が積み重なることで発症し、その遺伝子の変異は患者さんごとに異なることが近年の研究により分かってきました。

がんゲノム医療は、一人ひとりのがんの個性（原因）を明らかにし、患者さんにより適した治療方法を見つけることを目的とするがん治療です。がんの原因となっている変異した遺伝子を解析するために、がんゲノムプロファイリング検査を行います。

—がんゲノム医療を受けるには…

○どこで受けられるの？

現在、がんゲノム医療を実施できる病院として、全国には「がんゲノム医療中核拠点病院」12施設、「がんゲノム医療拠点病院」33施設、「がんゲノム医療連携病院」183施設があります（2021年10月1日時点）。当院はがんゲノム医療連携病院として、中核拠点病院である慶應義塾大学病院と連携して実施しています。

○どのような人が対象になるの？

現在のがんゲノム医療は標準治療が終了もしくは終了見込みである方を対象としています。

当院で行っているがんゲノムプロファイリング検査には保険診療の検査と自費診療の検査があります。保険診療・自費診療のどちらの検査になるかは、当院での受診後に判断します。

○保険診療の対象となる方

- ・原発不明がんもしくは希少がん、あるいは固形がん で標準治療が終了もしくは終了見込みである。
- ・2か月後に新たながん治療を行うことが可能と推測できる元気な状態である方。

○自費診療の対象となる方

- ・悪性腫瘍（固形がん）と診断された方
- ・がんゲノムプロファイリング検査の保険適応の条件に当てはまらない方

※ただし、当院・他院にかかわらず、入院中の患者さんは保険診療・自費診療ともにごんゲノムプロファイリング検査を受けることはできません。

がんゲノム医療の流れ

①まず、現在かかっている主治医の先生に、がんゲノム医療外来の受診についてご相談ください。

当院で治療中の方

主治医の先生にご相談ください。

当院で治療を受けていない方

患者さんからの直接の予約は受け付けておりません。

受診希望の方は、現在受診されているかかりつけの医療機関へご相談ください。かかりつけの医療機関から、当院の地域医療連携センターへ予約申し込みをしていただきます。

②外来の受診
(検査の説明・同意)

検査センター（外部機関）

④検査・解析

がん組織・血液を用いて遺伝子解析が行われます。

⑤エキスパートパネル（専門家会議）

主治医、病理医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医などの様々な職種が集まり、カンファレンスにて解析結果を検討し、今後の治療方針を協議します。

⑦治療選択



⑥再診（結果説明）

再診外来にて遺伝子解析の結果とその結果に基づく推奨治療を提示します。

がんゲノム医療センター

センター長 ^{いそ} ^べ 磯部 ^{たけし} 威
 副センター長 ^つ ^{ばた} ^ゆ ^{かり} 津端由佳里
 副センター長 ^{すず} ^ぎ 鈴木 ^{りつ} ^{ろう} 律朗



磯部センター長

がんの個性を見つける

がんゲノムプロファイリング検査により、患者さんのがん細胞に見られる遺伝子の変異が明らかとなり、がんの個性（原因）が分かります。がんの個性を解明することで、それぞれの個性により適した治療薬の情報を得ることができ、治験や臨床試験にエントリーできる可能性や保険適応外の薬を自費診療で使用できる可能性があります。

採取済みの検体を用いた検査

がんゲノムプロファイリング検査では、新たに手術や生検（がん組織を採取すること）を行うわけではなく、がんの診断のために採取、あるいは、がんの治療のために手術などで摘出したがん組織を使用します。

ただし、がん組織が足りない場合には再手術または再生検する可能性もあります。また、検査の種類によっては採血も必要となります。

従来のがん治療との違い

従来のがん治療は、それぞれのがんに対して作成されたガイドラインに沿った標準治療といわれるものです。いくつかの治療を比較し、ガイドラインに従って有効性が高いと判断されるものを選択して、1次治療、再発・再増悪した際には2次治療と進めていきます。

標準治療と異なり、がんゲノム医療は、特殊性が高く、個々のがんの原因を解明して個別の治療方法

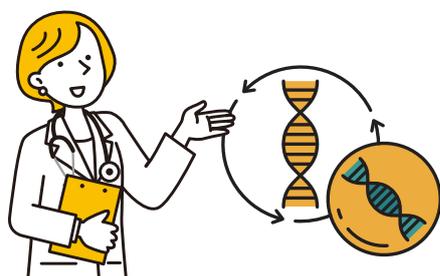
を提案するものです。標準治療では治療に行き詰まった患者さんにとって、新たな治療選択を見出すための手がかりとなる可能性があります。

現在までのデータでは、治療に結びつく遺伝子変異が見つかるのは10%～15%程度です。解析に用いた検体の品質や量によっては解析自体が不成功に終わる可能性や、また、がん細胞で起こっている遺伝子変異に対して効果が期待される薬剤が見つかったとしても、日本国内では販売が承認されていない薬剤の場合、患者さんのがんへの適応が認められていない薬剤の場合、患者さんが参加条件を満たさない臨床試験・治験でのみ使用されている薬剤の場合など治療法として選択できないことがあります。

今後の展望

がんゲノム医療を受ける患者さんが増えデータが蓄積されていくことで、ますます治療選択が増えていくと考えられます。また、遺伝子の解明や治療薬に関する基礎的な研究も進められており、更なる発展が期待されます。

がんゲノム医療センターでは、がんゲノム医療の啓発活動として、院内医療従事者を対象としたセミナー、診療科への個別説明の実施、患者さんを対象とした公開講座を企画しています。公開講座の開催についてはがんゲノム医療センター HP等でご案内いたしますので、ご興味をお持ちの方はぜひご確認ください。



当院で実施するがんゲノム医療の詳細につきましてはがんゲノム医療センター HPをご覧ください。

がんゲノム医療センター HP





～どんな先生?～ Professor

島根大学病院に所属する教授の人柄、専門分野などを紹介するコーナーです。

島根県に本格的な呼吸器外科診療を開始いたしました!

外科学講座呼吸器外科学 やまね まさおみ
山根 正修

皆様、初めまして山根正修と申します。日本3大胸部外科の一つとされる岡山大学で長い間、呼吸器外科診療を行ってまいりました。特に進行肺癌、肺移植を専門としながら人材育成に力を入れておりました。2021年8月1日に私を含めスタッフ3名が岡山より島根大学に就任いたしましたので、呼吸器外科診療を前任地以上に充実していく気持ちです。同年9月に島根県では初めてとなる肺癌に対するロボット支援手術を開始しました。また、大きな血管まで広がった進行肺癌の切除手術や肺機能を温存する複雑手術を実践しています。現在、こうした本格的な呼吸器外科手術を安全にご提供する体制が整っています。また肺

疾患で呼吸状態が悪くなった患者さんに対し将来的には肺移植手術が行えるよう準備してまいります。



どなた様も安心してご相談頂けますようスタッフ一同患者さんに寄り添う医療をモットーとしております。全国的に前例はありませんが患者さんとご家族の参加できる開かれた手術カンファレンスの開催も準備しております。呼吸器疾患でお悩みの方はお気軽にお問合せください。



幅広い診療を行う泌尿器科

泌尿器科学講座
ロボット支援手術推進センター長
腎移植センター長 わだ こういちろう
和田 耕一郎

2021年8月に椎名浩昭病院長の後任の泌尿器科教授として、岡山大学から参りました和田耕一郎と申します。

泌尿器科という診療科は上皇陛下が前立腺全摘術をお受けになった2003年に注目されました。以降約20年で大きく発展し、現在では初期対応や診断、薬物療法や手術に幅広く対応しております。薬物療法は従来の抗がん剤だけでなく、腎がんや前立腺がんに対する新規薬剤、がんゲノム医療にも対応しています。手術は腎がんや膀胱がん、前立腺がんに対するロボット支援手術、一般

的な腹腔鏡手術、開腹手術、経皮的手術、尿道から内視鏡で行う手術など、多種に及びます。代表的な開腹手術として腎移植も行っており、最近では男性不妊症への対応も開始致しました。

非常に幅広い泌尿器科診療を島根県全域の方々に安心して受けて頂けるよう、島根県内や山陰地方における医療機関や先生方との連携を大切に、医療従事者や住民の方々から厚い信頼が得られるよう努めて参ります。その際には「利他のこころ」と和田の『和』を意識し、協調して物事を進めていきたいと思っております。

お問い合わせや患者さんのご紹介をお待ちしております。よろしくお願い致します。



まるわかり看護部

★MARUWAKARI・KANGOBU★

A病棟8階・精神科神経科外来 看護師長 森川 貴志子

A病棟8階は、精神科神経科病棟です。薬物療法精神療法での治療を中心に県内で唯一実施できる電気けいれん療法（ECT）も行われています。私たちは患者さんにとって、安全で安心感を与える雰囲気のある環境、自尊心を傷つけない環境、患者さんの持っている力を発揮できる治療的な環境を提供し、病気の再発を防ぎ健康状態を保持するための知識や生活について納得して受け入れていただけるよう看護を提供しています。また、患者さん自身がいつもと違う変化に気づき対処できることやご家族の不安・ストレスを軽減していくために、医師、看護師、精神保健福祉士、

島根大学病院看護部は、30以上もの部署があります。それぞれの部署はどのような役割を担っているのでしょうか。このコーナーでは、当院看護部についてまるっとお届けします。



薬剤師、栄養士、リハビリテーション部等多職種で情報を共有し支援しています。入院・外来を通して、患者さんが自分の考えや希望を医師などに伝えることができるよう仲介的な役割を担い、お気持ちに寄り添いその人らしい生活ができるよう日々努めています。

外来 看護師長 伊藤 昌子

内科外来、外科外来、整形外科外来、看護専門外来を担当しています。受診の際には患者さんの心身の状況やご家族の思いに寄り添い、スムーズに診察を終え



安心してご帰宅いただけるように心がけて対応しています。

近年入院期間は短くなり、様々な治療や自己管理をご自宅で継続される方が増えています。そのために患者さんやご家族は自己管理の方法を学び、ご自宅で過ごせるようにする必要があります。私たちはそのお手伝いや、患者さんそれぞれの生活に合わせるための工夫や調整を積極的にしています。今のままでも良いけど“もっと良く”を目指します。また、看護専門外来では専門性の高い看護師が時間をとって相談に応じています。

地域包括ケアが重要視されるなか、より多くの患者さんのニーズを捉え、患者さんの生活をサポート出来るように外来・病棟・地域の連携を深め、地域で信頼される外来を目指していきたいと思ひます。



私のここだけの話

「幼いころの思い出をリメイク」

看護部 看護管理室 副看護部長 周藤 幸子

私の実家では、リフォームに向け家中の片付けを始めました。私は高齢になった母親の部屋の片付けを手伝いました。母のタンスから私が幼いころに着たことのある着物が出てきました。母が母方の祖母に作ってもらった着物だと話してくれました。その着物を着ていたことは微かな記憶でしか残っていないのですが、保存状態もよく廃棄するには寂しいな・・・と思い、知り合いの方に「はんでん」にリメイクをお願いしました。実際に出来上がってみると可愛すぎて（派

手すぎる）、正直着る機会があるのには分かりませんが、もう少し幼いころの思い出として傍に置いておこうと思います。

断捨離も必要ですが、中には大切にしたいものもありますね。そして、母親と片付けをしながら思い出話をする時間が何より貴重な時間でした。





病院紹介①

緩和ケアセンター

緩和ケアとは、病気そのものを治すことが難しい患者さんご家族に対して、身体の苦痛だけでなく気持ちや生活に関わる苦痛を和らげること、ご自身がその人らしく過ごせることを目的とするものです。緩和ケアセンターには、緩和ケアチーム・緩和ケア病棟・緩和ケア外来の業務がありますが、今回は緩和ケア病棟についてご案内します。



センター長・教授 なかに 中谷 としひこ 俊彦

当院の緩和ケア病棟は、より専門的な緩和ケアを行う病棟です。様々な苦痛（身体の痛み・気持ちの辛さなど）を和らげるための治療・ケアを積極的に行います。ご自分らしい日々を大切に過ごせるように支援をします。寝たままの姿勢でご入浴いただける高機能浴槽を持つ介助浴室もございます。緩和ケア病棟では、病状に応じて他施設へ転院することや、在宅ケアに移行することも考えて対応しています。スタッフ一同気持ちを込めてケアをいたしますので、ご遠慮なくご利用ください。



介助浴室



病院紹介②

総合診療医センター

19番目の専門医として認められた総合診療専門医の養成が全国で2018年から始まりました。総合診療医は幅広い視野で患者さんと地域を診る医師です。年齢性別を問わず、よくある疾患に対応します。予防医療から急性期の診断治療、そして回復期から慢性期、終末期までの医療にかかわります。より高度な医療が必要な場合には適切に紹介します。医師以外のメディカルスタッフとのチーム医療をモットーとし、保健・福祉分野のスタッフとも連携します。また個々の病気のみならず、病院や地域の問題を俯瞰的にとらえながら患者さんや住民にとっての最善を目指して活動します。少子高齢化、医師の地域偏在の著しい島根県にこそ求められています。当セン

センター長 しらいし 白石 よしひこ 吉彦

ターは現在、地域で活躍している総合診療医の力を集結して、大学で医学教育にかかわり、良質な総合診療医を育成するために活動しています。



みらい棟2階 総合診療医センター

総合診療医
センターHP



イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定 (出雲ケーブルビジョン)

2022年1月放送予定

呼吸器外科 教授 山根 正修
放送内容：「命と呼吸」



しまだい病院の キラ☆めき!



島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介します。

皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、真剣に仕事に取り組んでいます。



卒後臨床研修センター 医科研修医 ^{みやじま}宮島 ^{のぶえ}伸枝

医科研修医2年目の宮島です。医科研修では固定の科に属さず、だいたい1か月単位で各診療科を転々としながら研修を行っています。救急外来から病棟、時には麻酔や手術まで幅広い知識と技術を学び、患者さんに少しでも良い医療を提供できるように努力しているところです。

私が現場に出始めて約1年半が経過し、右も左も分からなかったことがやっと見えてくるようになりました。見えているのはまだまだ入り口程度でしょうが、今日より明日を合言葉に日々研鑽を積んでいこうと思います。

A病棟5階 看護師 ^{かじたに}梶谷 ^{なみ}奈未

看護師として入社し、2年目となりました。A病棟5階では移動に介助の必要な患者さんが多く入院されており、入院生活が安全・安楽に過ごせるよう、身体機能の状態や個性に合わせた看護を行うように心がけています。配属された当初は、患者さんに対して安全・安楽な看護をどのように提供すればよいのか分からず悩むこともありましたが、先輩方からのアドバイスや同期の支えを受け、徐々に自信をもって看護を提供できるようになりました。また、日々の関わりの中で感謝の言葉を頂ける機会もあり、とても励みになりました。

今後もさらに知識を深め、患者さんに寄り添いながら個性に合わせた対応、関わりを大切に、看護を行っていきたいと思います。



放射線部 診療放射線技師 ^{まつうら}松浦 ^{こうすけ}航介

放射線部 診療放射線技師(6年目)の松浦航介です。2020年に医学物理士という資格を取得しました。医学物理士は放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、画像診断および放射線治療分野で機器や装置の品質管理・保証を行います。また、放射線治療分野においては医師と連携し治療計画の最適化を行い、高い精度で計画通りに放射線治療が行われていることを担保します。

これからも患者さんに安心して検査や治療を受けていただけるように日々精進してまいります。

編集後記

あけましておめでとうございます。新年号では、がんゲノム医療を特集しました。「がんゲノム医療って聞いたことあるけど、実際どんなもの?」という疑問に少しでもお答えできていましたら幸いです。

私自身、外国語学部(フランス語を必死で勉強していました。好きな都市はAngers(アンジェ)です。)の卒業のため、医療に関しては知らないことばかりですが、皆さまに代わって医療に関する疑問を先生方にお聞きし、分かりやすく情報を発信できるよう努力したいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます!)

医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

